# 編集後記・Editorials

魚類学雑誌 64(1):93–93
2017 年 4 月 25 日発行

魚類学雑誌 64 巻 1 号をお届けします．前号でお知らせしたように，64 巻から魚類学雑誌は大幅にリニューアルされました．ご覧いただければお分かりになると思いますが，本論文と短報を一本化した「原著論文」というカテゴリーと「記録・調査報告」という新しいカテゴリー（今回 2 報が掲載）で構成されています．新設された「記録・調査報告」ですが，このカテゴリーは，主としてこれまでの会員通信の「新知見紹介」に相当する原稿が対象となります．49 巻 1 号の会員通信（当時の和文誌編集主任の片野　修氏が執筆）に，「新知見紹介」の対象として，「魚類の分布，形態，生態，行動などについての新知見が得られたが，論文にするほどまとまっていない場合」という文言があり，このような原則に従い，これまで「新知見紹介」の原稿を掲載してきました．しかし，学会 50 周年記念事業実行委員会のアンケート調査結果において，「魚類学雑誌の新カテゴリーである記録・調査報告がどのような内容を対象としているかわからない」というご意見がありました．確かに，現状，わかりくい状況ではあることを編集委員会も認識しております．今回，原稿作成上の注意に「記録・調査報告には，分布の更新，新規な情報を含む生態・行動の観察記録，現状報告程度のモニタリングなどを掲載する」との記述を加えましたが，本誌への投稿に関して，どのカテゴリーに投稿するか判断が付かない場合も含めて，ご不明な点があれば，甲斐編集委員長（mebaru@kais.kyoto-u.ac.jp）または和文誌編集主任の私（kokita@fpu.ac.jp）までご一報ください．

今後，各カテゴリーがどのような内容を対象にしているかについて，編集委員会で詳細な手引きを作りたいと考えております．さらに，J-STAGE を利用したオンラインファースト導入に関する具体的な検討を現在進めているところですので，それも含めて 64 巻 2 号の会員通信でお伝えする予定にしております．

また，本号の会員通信に研究室紹介の記事が掲載されていますが，少なくとも近年ではこのような掲載はありませんでした．和文誌は，科学論文の掲載媒体であるとともに，会員の情報誌という二面性を保有していると考えておりますので，研究室紹介や研究会紹介といった記事に関しても，会員の皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしております．

（小北智之）